

教育学研究科・グローバル教育展開オフィス

松村 有希子

国際学会：27th Congress of the World Association for Sexual Health
参加地・期間：Brisbane, Australia 2025年6月16日～6月19日
発表題目：Sexual Stigma in Lesbian, Gay, and Bisexual (LGB) Individuals. -
Mapping Review Focusing on Antecedent Factors, Mitigating
Factors, and Coping Strategies-

成果の概要

自身の発表

私は、オーストラリア・ブリスベンで開催された 27th Congress of the World Association for Sexual Health において、“Sexual Stigma in Lesbian, Gay, and Bisexual (LGB) Individuals – Mapping Review Focusing on Antecedent Factors, Mitigating Factors, and Coping Strategies” という題目でポスター発表を行いました。本研究は、レズビアン・ゲイ・バイセクシュアル（以下、LGB）である人々が抱えるセルフスティグマに関して、その先行要因、対処戦略、緩和要因を検討したものです。

国際学会に現地で参加するのは今回が初めてであり、緊張もありましたが、配布用の資料や、iPadを用いた補足情報を準備していたこともあり、ポスター前で足を止めてくださる参加者の方々と積極的に意見交換を行うことができました。

会場の様子・他の研究者との交流

会場には多様な国籍や文化背景を持つ参加者が集まり、非常に活発な議論が交わされていました。オープニングセレモニーでは、すべての参加者に「性の健康・権利・正義・快」を象徴する色（白・青・オレンジ）のいずれかを身に着けるよう呼びかけがあり、民族衣装を取り入れた参加者も多数おり、現地ならではの熱気を肌で感じることができました。

メインホールの入り口付近には、性の健康に関する団体や企業のブースが並び、最新の活動や製品について資料やサンプルを見ながら説明を受けることができ、大変興味深く感じました。

ポスター用のボードはメインホール内の両端に設置されており、所定の発表時間以外にも、休憩時間などに立ち寄ってくださる方が多い印象を受けました。さまざまな分野の研究者や活動家の方々からコメントをいただき、自身の研究についての理解を深める貴重な機会となりました。特に、オーストラリアの学校でLGBTの青少年支援を行っている教員の方々との対話を通じて、「子どもたちが実際に抱えている悩み」や「社会的スティグマがセルフスティグマへとつながる仕組み」に関して、日本との違いや、背景にある文化差について議論できたことは、大きな学びとなりました。

また、ポスター発表以外の時間には、さまざまな分野の口頭発表を聴講しました。WASは非常に学際的な学会であり、医療・教育・法律・心理など幅広い分野から性の問題が取り上げられていました。自身の研究と直接関係するものに加え、これまで十分に触れてこなかった分野の発表にも多くの刺激を受け、有益な情報収集の機会となりました。さらに、国内の学会と比べてポスターやスライドのデザインがカラフルで視覚的にもわかりやすいものが多く、聞き手の理解を助けるだけでなく、楽しんでもらう工夫が随所に感じられました。今後の自身の発表にもこのような工夫を取り入れていきたいと感じました。

本支援を受けた感想・今後の研究活動へのつながり

今回、初めて国際学会に現地参加することができ、多様なバックグラウンドを持つ研究者と意見を交わし柔軟に視野を広げることや、最新の情報に触れる重要性を改めて感じ、また、自身の研究を国外に発信できる喜びを実感しました。今後は、自身の研究をより国際的に意義あるものへと発展させ、再び国際学会でその成果を発表できるよう、一層努力を重ねてまいります。

このような貴重な経験を得ることができたのは、グローバル教育展開オフィスの皆様からのご支援のおかげです。改めて心より御礼申し上げます。